

豫園商城の賑わい

年末年始か縁日か。路地に入れば人人人。まともに歩くことさえできない。ここは上海の食と買い物の名所「豫園^{よえんしやうじやう}商城」。明代の建築・造園様式が残る江南地方を代表する名園として名高い「豫園」。その西側と南側に隣接して広がる繁華街がそこにある。何処となく日本の浅草の仲見世を連想させてくれる。

時は上海万博開催中だけに人の多いのは理解できるが、少し路地に入ると大小の建物がひしめき合い、そこを人がまるですし詰め状態で溜まっている。そしてこの夏の異常な暑さが加わり、私には見学・買い物どころではなかった。

ここは外灘や浦東といった洗練された街並みや、超高層ビル群とは全く違う雰囲気を持っており、何処となく人間の昔を思い出させる懐かしさが漂っている。全ての建物が明清代様式で、軒先の四隅が鋭く天に向かって延びる独特のデザインは古典を感じさせる。さらに夜ともなれば建物全体がライトアップされ華やかな世界へと導いてくれる。

ここは1900年前後、列強が上海に租界を造り上げていた時代は、城壁に囲まれた旧上海県城であった。その頃から市内で最も栄えた繁華街になっている。歴史は力である。持続は安定を生み信頼につながっていく。訪れる人の心に思い出の一頁を残すに違いない。撮影 2010年夏



